

23年度3年生の英語の授業における受験指導について

英語科 中村 正春

現在3年生である平成21年度入学生の英語の授業に関しては、「言語としての英語」「大学受験の主要教科としての英語」の両側面をバランス良く進める努力をしている。過去2年間、生徒の多くが大学進学を希望していることを考慮に入れ、前回担任を受け持った4年前の卒業生に実施した指導を基にした3年間を見通した受験指導計画を紹介したが、今回はその進捗状況の分析と最終的な受験対策について報告する。

1) 予習を前提とした授業の展開

先輩達の中には、予備校や塾に通った生徒もいれば、独力で受験勉強をやり通したものもいる。予備校や塾へ通えば必ず成績が伸びると誤解する生徒が多いが、そこには大きな落とし穴がある。希望進路の実現に成功した先輩たちに共通していることは、自ら勉強する力を持っていたということである。どんな先生に習おうとも、自ら進んで勉強する姿勢を身につけなければ、決して実力を身につけることはできない。受験勉強とは直結しないように思われるかもしれないが、毎日の学校の授業に対して十分な予習をすることを身につけるが受験勉強の大切な第一歩となるのである。昨年までは以上のメッセージとともに各科目の具体的予習法を伝えたが、現3年生の状況は、先輩達と比較してみても、まじめに授業に取り組む生徒がほとんどで、全体的な予習量は決して劣ることはなく、授業の雰囲気などは、むしろ勝っていると言える。昨年度指摘した上位層の予習の質、量についてもかなり改善されたと思われる。大学入試当日まで残り数ヶ月となっているが、やはり勉強の基本は授業である。今まで以上に予習を大切にし、授業を第一と考え、リズムを崩さない学習習慣を維持してもらいたい

2) 3年間を通しての語彙指導

入学当初より、「VITAL 3000」を教材として、週に1回の単語テストを実施し続けている。優秀者の名前を掲示したり、サボっている生徒には追試や課題を出すなどの指導の成果が徐々に表れ、各自が自分の進路に応じた語彙力を身につけ出している。受験対策講座の自由選択英Ⅱでは、夏休み課題として「VITAL 3000」の全単語を範囲にテストを課したが40名中、35人が満点を取り平均点は98点を超えていた。センターレベルの問題まではこの教材を完璧にすることにより何とか対応できるが、それ以上を求める生徒は、次のステップの教材(①VITAL 4500 ②速読英単語必修編 ③ターゲット1900を推薦してあるが、これ以外でもレベルが同等であれば塾や予備校で推されているものでも構わない。大切なのは、自分がやりやすい教材を自分のペースで進めることである。)に取り組まなくてはならない。既に多くの生徒が4月より次のステップに進んでいるが、年内にはそれぞれの教材を完全に自分のものにしてもらいたい。基本となる「VITAL 3000」の単語テストは毎週の朝学習で継続していくので全てのテストで満点をとることを常として欲しい。

3) 今後の学習方法

2年次までは細かい家庭学習の方法を例示したが、最終学年では各自が自覚を持って自分のペースで学習できるようになっているはずである。入学時より進路部を中心に色々な形の学習計画表を紹介してきたが、受験まで残りわずかとなった今こそ自分なりの計画を

立てることが効果的である。これまでは英検へのチャレンジを受験に向けての小さな目標として指導してきたが、現在は校内外で実施される模擬試験をその代わりとして薦めている。1回毎の結果に一喜一憂する必要はないが、ペースメーカーとしてだけではなく、実力の確認の為に有効に活用して欲しい。その為には進路部からの連絡を聞き逃すことなく、できる限り多くの模試を受ける必要がある。また、各教科の勉強で行き詰まった場合には、もっともっと担当の先生を有効に利用すべきである。進学校であった前任校の生徒達は実に貪欲に教員を利用していった。3年生を担当した時には質問の生徒が押し寄せ、休み時間や放課後はその対応で大忙しであった。先生方に迷惑をかけるなどと思わずに、是非とも我々に「嬉しい」悲鳴をあげさせてもらいたい。

4) センター試験に向けて

これまで、土曜日や長期休業中の補講では主に全ての入試問題の基礎となるセンター試験対策を行ってきた。残念ながら、ここ数年の本校英語の平均点は全国の平均点を「1」とした場合に「0.8」に届かない状況（昨年度は全国平均 122.8 に対して 88.3 で 0.71、最高点 174）が続いている。現3年生には授業でも伝えてきたように、①難関大学志望者 180 以上、②英語の得意な生徒 150 以上、③一般的な生徒 120 以上、④英語の苦手な生徒 100 以上を目標にしてもらいたい。夏休みの英語補講には毎回 80 名以上の生徒が参加して真剣に取り組み、模擬問題で 160 を超える点数を取る生徒も複数出てきている。今後の土曜補講・冬休み補講でも、入る教室がなくて担当者が困るような状況になることを期待している。

5) 受験先の最終決定に当たって

現3年生には、入学以来「けじめのある学校生活」、「熱中できるものの探索」、「希望進路実現に向けての勉強」を基本方針に学年の担任団が常に本気で指導を行ってきた。朝のSHR、朝学習、土曜授業、自学自習ガイダンス、自由選択科目履修指導等大きな学校変革の中、多くの困難にも負けずこれまで我々の期待に応えてくれている。ほとんどの生徒が遅刻の多さや頭髪・服装の乱れなど学年が上がるにつれて自分に甘くなる先輩達の姿を目の当たりにしながらも、「けじめ」を意識した学校生活を送っており、部活動や学校行事など真剣に「熱中」できるものに没頭できたように思われる。「勉強」時間についても進路部の調査で明らかのように学年を追うごとに改善されてきている。卒業に向けてこれらの素晴らしい高校生活をより輝いたものにする為には、希望進路を実現することが不可欠である。最終進路希望決定に当たっては、これまで進路部を中心に指導してきたように、①自分が何を将来したのかを確認し、②決して「安（受かりやすく）・近（家から近い）・短（短期間で決められる）」になることなく、③競い合える仲間のいるより難易度の高い所を、一般入試を基本に狙って欲しい。もちろん自分の本当に行きたい所がある場合には推薦入試を利用することもあるだろうが、合格決定後は1月に実施される英検2級取得を目標に努力し、一般入試受験生に負けない英語力をつけなくてはならない。

夏休みの学習状況を何人かの生徒に聞いてみたが、1日平均10時間を超える者から2,3時間しかできなくて青い顔をしている者まで多種多様であった。先輩講話で、早稲田大学や埼玉大学に進学した先輩たちが話してくれたように、これからも多くの挫折や悩みにぶつかるだろうが、決して安易に妥協することなく、うまく気持ちを切り替えたり、勉強のペースのギアチェンジをしたりして、残りの学校生活を悔いのないように過ごして欲しい。